



金沢医科大学の全景

金沢医科大学形成外科学教室
同門会

Letter No.3

2020.1

特集



謹賀新年

年頭の挨拶 島田賢一

新年あけましておめでとうございます。

昨年は11月に「金沢医科大学形成外科学講座開講45周年記念祝賀会」が催されました。

基調講演では、「初代主任教授形成外科学講座開講にあたって」と題して、形成外科開設時からの苦労話など、塚田先生にご講演いただきました。

久しぶりに塚田先生のお話を拝聴でき、大変嬉しく思っております。また、先輩の先生方からも、今後の形成外科学教室の方向を示す示唆に富んだ発表もいただきました。どうもありがとうございました。今後は、諸先輩方が築いた伝統を重んじながら、あらたなチャレンジをしていきたいと思っております。

さて、昨年12月初旬に、新専攻医制度（新研修制度）の一次募集が締め切られ来年度の入局者が決定しました。来年度はなんと、6人の入局が決定いたしました。本年度は5人、来年度は6人となんとか入局者を確保できホッとしております。これもひとえに関連病院の先生方のご協力のたまものと、あらためて御礼申し上げます。

医局にとって、新人は宝であります。様々な個性をもつ若い先生をそれぞれの特性に合わせて教育することが大学の責務と考えています。今後、関連施設での研修や診療お手伝いなどでお世話になると思いますが、ご指導のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

最後となりますが、医局員ともども、本年もどうぞ宜しくお願い致します。

特集

金沢医科大学形成外科学講座
開講45周年記念祝賀会

2019年の出来事

新企画 珠玉の手術記録

同門会員からのたより

- ☆国内留学報告（柳下幹男先生）
- ☆国内留学報告（米沢みなみ先生）
- ☆はじめての一人医長（竹村朋子先生）

同門会事務局・医局からのお知らせ

- ☆新年会開催のお知らせ
- ☆学会開催のお知らせ など



2019年の出来事

令和元年度 同門会総会 6月9日ホテル日航金沢

50名が参加しました。総会では、年々繰越金が減少しているため、同門会の創立以降、長年据え置きとなっている年会費の値上げ案がだされました。次回の幹事会で具体的な額を検討することになり、2020年度分から年会費が増額する予定です。懇親会では、2019年度から金沢医科大学形成外科専門研修プログラムでの後期研修を開始した5名が紹介されました。



若手をどじらせた宮永章一先生の締め挨拶：「私は急患が大好きでした。出向してくる若い先生にも、一生懸命勉強している人にはなんでもやらせてあげました。

（小松市民病院を退職し老健施設に移った）今でも毎日病院に通っています。行かなかったのは親が亡くなった時の数日だけです。若いうちは積極的に症例を見て経験を積んでほしいと思います。」



後期研修を開始した、左から 田中 和（たなか やわら）、勢藤 綾花（せとう あやか）、石井 華（いしい はな）田畑有希（たばた ゆうき）、小林昇平（こばやし しょうへい）

形成外科総会での食事会 5月15日札幌

札幌で開催された第62回日本形成外科学会総会・学術集会にあわせ、同門会の食事会を行いました。札幌在住の吉川秀昭先生（川上先生と岡田先生の間）、盛岡からは

櫻井伴子先生が参加されました。南は沖縄の平敷貴也先生、北九州の村田宏爾先生が、そして北陸からは岡田会長はじめ大勢が参加して盛り上がりました。（2020年の名古屋での総会でも食事会を開催予定ですので、ふるってご参加下さい）



金沢医科大学形成外科学講座

開講 45 周年記念祝賀会

11月17日 金沢ニューグランドホテル 銀扇

63名が参加し、無事終了いたしました。座談会では話が尽きず、予定時間を大幅に超過して盛り上がりました。

記念座談会 去来今考

開会の挨拶 川上 重彦

基調講演 塚田 貞夫

司会 岡田 忠彦 (同門会会長)



第1部 先輩からの提言「私達が磨いてきた形成外科の技、次世代に望むこと」

北山 吉明 : どうやって手外科の技を習得したか

亀井 康二 : ポストンへの留学経験、美容外科の魅力

安田 浩 : 熱傷治療、産業医大での形成外科設立

上野 輝夫 : 砺波総合での口唇口蓋裂治療、言語評価と訓練

林 洋司 : レーザー治療への取り組み



第2部 大学からの提言「私達のなすべきこと、いかに継承し発展させるか」

山下 昌信 (准教授) : 臨床で取り組んでいること

宮永 亨 (講師) : 現在進行中の基礎研究と今後の展望

金子 貴芳 (医局長) : 教室の現在と今後の展望

島田 賢一 (主任教授) : 活躍できる人材を育成するには

座談会終了の挨拶 岡田 忠彦



開講 45 周年記念座談会 基調講演

初代主任教授形成外科学講座開講にあたって

塚田貞夫

講座開講 45 周年に当り「去来今考」を展望するため記念の座談会を開催することになりました。これは大きな喜びであり、知識を深めるため意義あることと思います。どうか皆様方には、この三世について脳裡によぎる忌憚のない意見を述べていただきたいと思います。

本題に入ります。形成外科開設に至るまでの経緯について述べます。私はインターン生活を有意義に過ごし、外科系・とくに皮膚・泌尿器科に興味をもっていました。昭和 33 年（1958）金沢大学医学部大学院に入学、同希望者の抽選の結果、川村太郎教授のご指導を受けることになりました。当初、川村教授は外国出張中で、帰国時のおみやげとして Brown の電動式デルマトームを持参されました。先輩方は使用困難でした。このデルマトームこそがその後、私の最大の武器として活躍してくれることとなります。次に、登場したのは Schreus の高速度皮膚用グラインダー機器です。茲に本格的皮膚外科治療体制が確立しました。以来、熱傷はもとより母斑類も治療が確実になりました。他方、自動車のフロントガラスによる顔面外傷も増え、これに多くの形成外科的疾患が加わり、患者数が一段と急増しました。昭和 43 年 5 月、岩泉九二夫・赤羽紀子の両人が形成外科診療に専従することになり、診療班を発足しました。その後、昭和 47 年 4 月から柳下邦男（金沢大・大学院修了）、畷 稀吉、岡田忠彦、山本正樹、安田幸雄の五人が加わりました。なお、全身麻酔は皮膚科の熊谷武夫氏にお願いしていました。多忙の中、同年 9 月から新天地の金沢医科大学形成外科学教室へ全員移籍しました。

次に、1. 形成外科学会への関与について述べます。昭和 37 年から第 5 回東京地方会に参加、同 42 年から、日本形成外科学会に演題を提出、同 47 年第 15 回同学会（盛岡）でシンポジストとして、メラノサイト・メラニンについて発表しました。

同 55 年第 23 回同学会（長崎）で宿題報告を発表しました。同 57 年同学会（金沢）を主宰しました。

2. 形成外科医療研修について述べます。昭和 43 年に東京警察病院（飯田橋）に出張、大森清一先生の下で研修を受けました。その後、昭和 49 年

（1974）大森先生の御紹介で、オーストリア；Innsbruck 大学、スロベニア；Ljubljana 大学、英国；Queen Victoria 病院で研修し、楽しみました。

3. 臨床研究について述べます。昭和 45 年 2 月 II 巻 35 冊からなる GOHBANNDT, GABKA & BERNDORFER 著（1965 出版）の教本を入手、手術は更に複雑化し、好成績をあげるのに役立ちました。

4. 基礎研究について述べます。昭和 47 年皮膚科福代良一教授の計らいで、第一解剖学教室本陣良平教授の下に在籍、実に親身な御指導を受け、赤羽紀子さんと共に電子顕微鏡による研究に励むことができました。

5. その他、主要なものを挙げます。昭和 41 年中部地方会を発足、昭和 46 年 2 月北陸地方会を発足、昭和 62 年 3 月、熱傷センター開設、診療を開始したことです。

以上、詳細について、日本形成外科学会 25 年の歩み（特に認識しておくべきこととして、「形成外科」の科名の正式使用は、衆参議員立法により一般標榜科名を獲得した昭和 50 年 6 月 25 日の日付けからである）、教室業績集 I、II、私の叙勲記念誌、そして最近の第 100 回日本形成外科学会関西支部学術集会記念集を参照してください。

令和元年 11 月 17 日 記



祝賀会開宴の挨拶 島田 賢一

乾杯 宮永 章一

締め挨拶 山本 正樹






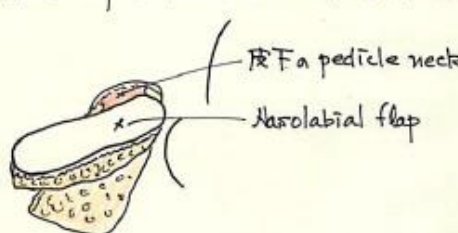






新企画 珠玉の手術記録 (第1回)

医局には開設当時からの手術記録がすべて保存されています。今回は、この中から昭和49年(1974年)10月の手術記録の一部をご覧ください。開設直後の先生方の意気込みが伝わってくるような手術記録です。この時期の手術はほとんど塚田先生が執刀しています。そして(当時の)若い先生方が、塚田先生の手術を仔細漏らさず記録しています。

Q1.この頁と次の頁の手術記録は別の先生が書きました。どなたが書いた手術記録でしょうか？

Q2. この頁の手術記録の診断名、Rodent ulcerとは？

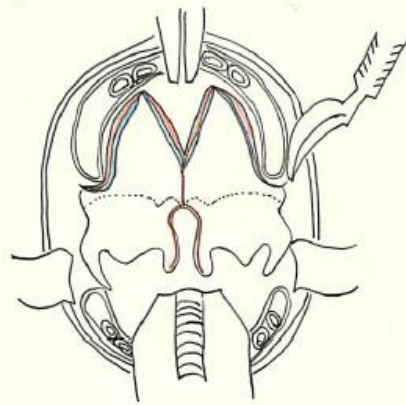
氏名	[Redacted]	男女	65才	月	日	手術日	49年10月	
術前診断	Rodent ulcer.						手術所要時間	2時間30分
術後診断							開始	9時30分
術式	nasolabial flap & composite grafting & nasoplasty						終了	12時00分
術者	Dr. Tsukada						助手	[Redacted]
麻酔法	General anesthesia (GOF)						麻酔医	Dr. Tanaka.
手術所見								
								
nasal tip . columella . nasal floor 部 . Tumor を 上図の如く excision								
								
上図に nasolabial sulcus に沿って incision を加え . 上部に 皮下 pedicle neck を作り nasolabial flap を作成する								
								
上図の如く . nasolabial flap を nasal alar の皮下を通し 鼻孔部には 17 . その先端を philtrum の defect 部に suturing する								
								
右鼻孔上部に 4-0 糸 incision を加え composite graft を採取する 更に その composite graft を nasal tip & columella の defect 部に grafting								
Composite graft (右鼻孔) composite graft.								
特記事項	今回も 4-0 糸で . nasolabial flap の neck を切断して . columella & nasal tip を covering する。						病理標本術中写真	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有
							[Redacted]	



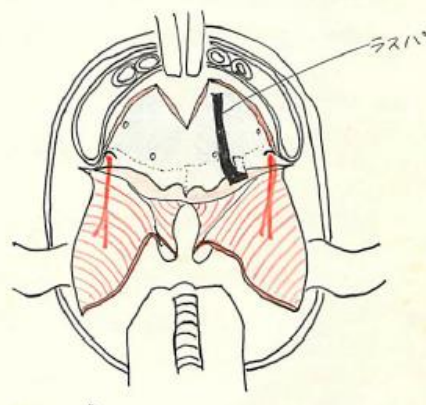
手術記録 (形成外科)

氏名	[REDACTED]	男 1才2月 日	手術日 49年10月 [REDACTED]
術前診断	Soft cleft palate		手術所要時間 2時間0分
術後診断			開始 10時0分
術式	palatoplasty		終了 12時0分
術者	prof. Tsubado 助手 K. Yuzishita, [REDACTED] ?		
麻酔法	General anesthesia		麻酔医 Dr. Iwata

手術所見
図A



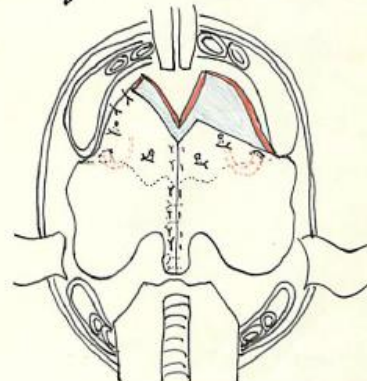
B



C



D



特記事項

1. Dingmann 改良型開口器にて開口。
1/20万 bismine 入り carbocaine を切開線に添って injection 録型メスにて 図 A のごとく incise。
2. ラスハ°にて 口蓋骨より 口腔側 mucosa を剥離し, A. palatina major を露出, 同 arteria と共に 口蓋粘膜を free にする。nasal side の mucosa を ラスハ°にて剥離し free にする。口蓋骨に キリ にて 穴をあける。(図 B)
軟口蓋 nasal side に Z-P。
3. 軟口蓋粘膜 (nasal side), nasal side mucosa で裏方を SCS 5.0 にて 縫合。(図 C)
4. Catgut (4.0) - 部 SCS (5.0) にて, 口腔側 mucosa を Horizontal mattress sutures, 口蓋骨に あけた 穴に Catgut を通し, Flap を 固定 (図 D)
5. Raw surface は, ICP に 浸した ツンパ° に より 圧迫 固定。

同門会員からのたより

国内留学短報 静岡より愛を込めて

米沢 みなみ先生 (2012年入局)

2019年4月より、再建・マイクロサージャリーの勉強のため静岡がんセンターレジデントとなり早くも8ヶ月が過ぎました(12月現在)。金沢とは少し縁遠いこの地この病院と、現在の私の勉強させていただいている環境を少しだけ紹介させていただきます。

まず、静岡がんセンターは静岡の東部、三島(新幹線止まります)に位置し病院自体も山の上にあります。北陸と比べ青空の日が多い上に富士山が近く大きいです。私は医局まで徒歩10分の敷地内宿舎に居住していますが、朝ドアを開けると目の前に富士山が見える絶景です。病院敷地内には猿出没注意の看板や(まだ遭遇はしていません)、宿舎の階段に蛇が出没するなど北陸に負けず劣らず自然が豊富です(笑)。隣の沼津市は港があり桜エビやしらすが有名で美味しいです。

静岡がんセンターは病院設立からまだ20年未満ということもあり院内は綺麗で中庭にはバラ園があり、患者さん達の散歩コースとなっています。医局管理棟には一人一つデスクを頂き、電子カルテのノートパソコンも一人一台支給されています(これが地味に一番嬉しい)。また、管理棟4階には小さいですが福利施設としてジムとシャワーがあり、結構多くの先生方が利用されています(ガチ勢も多いです)。

私が研修させていただいている再建・形成外科はスタッフの先生3名、2年目レジデント1名、1年目レジデント4名の合計8名で日々の手術・診療にあたっています。外来は基本スタッフの先生が行いレジデントが補助につき、処置は可能な限り皆で回診します。希望があれば他科を数ヶ月単位で研修することも可能です。1カ月の麻酔科ローテーションだけが義務として設定されており、私も10月に云年ぶりの挿管・麻酔管理をさせていただきとても良い勉強になりました。



当科は他科手術によって生じた欠損を再建することが多く、特に多いのは頭頸部外科、続いて乳腺外科・整形外科・脳外科・口腔外科など、また腹部外科からヘルニア再

建などの依頼もありそちらにも関わらせていただいています。他、LVAなども必要に応じて行っています。自科が主科であるよりも他科が主科であることが多いため手術の多少が週によって異なります。学会などで手術が少ない週もあれば、ほぼ毎日フリーフラップを(しかも並列なんてことも!)をしている週もありました。我々レジデントはスタッフの先生の指導・監督の下に皮弁挙上とマイクロ・縫い付けに別れてローテーションで手術に関わっています。当科では遊離のALT、腹直筋皮弁が多く、腓骨皮弁・広背筋皮弁・鼠径皮弁なども時々あります。この病院で研修をさせていただく中で、所変われば何とやら、いままでは知らなかったやり方や管理方法など、学ぶこと、北陸の皆さんに伝えたいことが沢山ありました。術前にエコー検査で穿通枝の走行や太さなどを事前に把握したり、flap checkは血糖測定器でpinprick testを行ったり、また、遊離・有茎空腸再建では動脈血の評価をICGで、静脈鬱血の程度をトッカーレ(組織酸素飽和度測定器)という機械で評価したり(これはまだ研究段階の機器でもあるため、どこにもあるものではないそうです)等々また、どこかの機会でも色々ご紹介していきたいと思います。

形成外科の同期レジデントは慶応、東京医科歯科、浜松医科大学から来ていて、皆真面目で仕事熱心な良い人たちばかりです。レジデント全体としては20代後半～30代半ばの年代が多いと思います。皆やる気に満ちていて、こちらも頑張らねば!と言う気持ちにさせてくれる人たちです。スタッフの先生方もとても優しく熱心に指導して下さい、学会発表や論文の作成なども積極的に御指導下さいませ。私も今まで以上に学会発表を積極的に行い、論文を書きつけていけるよう頑張る次第です。

長くなりましたが、まだまだ語りたこと伝えたいことは山とあります。どこかの機会に皆さんにここでの経験や得られたものをもっとお伝えできるように、これからも精進して参ります。



遠く静岡の地より、
北陸への愛を込めて。

国内留学短報 手外科医を目指して

柳下 幹男先生 (2009年入局)

2019年4月から、四谷メディカルキューブに国内留学させていただきます。私の希望をかなえてくださった、医局の先生方には本当に感謝しております。まだまだ途中経過ですが、現況をご報告させていただきます。

手外科領域は4つの分野、すなわち外傷、先天奇形、腫瘍、慢性疾患に分かれます。私たち金沢医科大学病院、そして関連施設では、外傷と先天奇形を主に扱っていると思います。四谷メディカルキューブは、これとは正反対で、腫瘍と慢性疾患を多く扱っている施設です。特に、更年期の女性に発症する手指変形性関節症、いわゆるヘバーデン結節、プシャール結節、母指CM関節症が多くを占めています。これらの疾患は治療を積極的に行われていないのが現状です。四谷メディカルキューブを受診される患者さんの多くが、他の病院を受診しても『年のせいです』『手の使い過ぎです』『治りません』といわれ、痛みを我慢しながら生活していると訴えられます。このような患者さんが、北陸を含めて全国から受診されています。そのため、予約は3ヶ月待ちです。



プシャール結節に対する人工関節置換術の手術風景です。
(左：柳下，右：平瀬雄一先生)

この病院で勉強させていただく以上は、北陸で手の慢性疾患で困った患者さんが、北陸で治療を受けられるようにすることが、私の最低限の使命であると自覚し、手技の修得とともに、学んだことを北陸の先生方に明確に伝えられるように日々精進してまいります。

また、センター長である平瀬雄一先生を求めて、手指の再建を希望される方も受診されます。今まで教科書でしか見ていなかった手技を目の前で見られることを幸せに感じております。

この貴重な時間を無駄にしないように、そして、根っからの田舎者が都会で道を踏み外さないように、頑張ります。

2020年同門会新年会のお知らせ

日時：2020年1月18日(土) 18:30～

場所：ホテル金沢

出欠の連絡がまだの方は、医局まで FAX でお知らせください。

(締め切り：1月6日)

金沢医科大学形成外科

FAX: 076-286-8915



一人医長を経験して

黒部市民病院 形成外科 竹村朋子 (2013年入局)

小学生の頃、球技が苦手で、中でもドッジボールは一体ボールをぶつけ合うことの何が楽しいのだろうと思っていました。ボールが怖い私は、逃げることばかり得意になって、一度チームに一人だけ内野で生き残ってしまったことがありました。当然ですが、どんなボールも私に向けられて飛んできます。そしてその数日後、家庭訪問か何かで、担任の先生が、「ドッジボールで一人になったのは非常に良い経験だったと思います。」と母親に告げられたそうです。

一人医長となり、どんな症例も自分のもとにやってくるこの状況で、まさか20年以上前の記憶がよみがえるとは思いませんでした。敵味方で戦っているわけではないので少々状況は違いますが、わからない症例も、うまくいかない症例も、必ず自分に返ってきて決して逃げることはできません。外来も、病棟処置も、手術も、急患も、全部私。ああ、あの時のドッジボールだな・・・と思いました。もちろん、一人医長でなくてチームで診療している先生方も、逃げるなんてことはなく責任を持って診療されています。しかし、おそらくこれまでの私には少し責任感が足りず、先輩方に甘えたり後輩に頼ったりしすぎていたから、今回の一人医長はそんな私への試練であり、もう少し責任を持ちなさいと神様が与えてくださったのかなと思ったりしています。

対応に迷った症例については、教科書や論文を読んで、それに従って正しい診療をしようと思います。ただし、一人一人違った体や環境があり、どうしても経験に基づいた意見が欲しくなる場面があります。そんなときには得意の甘えん坊を発揮して、優しい外勤の先生、これまでお世話になってきた先生、そして研修医時代にお世話になった他科の先生にも助けていただき、何とか乗り切っています。そんな困ったときに助言をくださる先生方は本当に神様に思えます。しかし、例えばある外傷後の患者さんで、「次の手術はもう少し待ったら？」というアドバイスをただただ鵜呑みにした私は、「もう少し待ちましょう」とこちらの意見を押し付けるだけになってしまい、早く治療を完結させたい患者さんと、理由がうまく説明できず方針を押し付ける私の間で、まるでケンカのようなやりとりになってしまったことがありました。アドバイスをいただくことは大事ですが、その上で自分の

考えをしっかりと持って診療しようと、そんな当たり前のようなことを改めて気づかされた一件でした。

常日頃思っていることは、たまたま担当した医師が私だったせいで、患者さんが損をしないようにということです。この病院の形成外科医は私しかおらず、病院を変えない限り、患者さんは医師を選ぶことはできません。正直なことを言えば、まだまだ自信なんてないけれど、自信のない医師には患者さんは診てほしくないだろうし、つい私でごめんなさいと思いたくなるところを、何とか、私が治療するぞ！という気持ちに持って行って日々の診療に取り組んでいます。そうやって毎日を過ごすうちに、自分はこの患者さんのために何ができるだろう、私のできる最善は何だろう、という気持ちが「やっと」出てきました。

これまで、私より若い医師が、「患者さんのためなら頑張れる」と言っているのをちらほらと聞いたことがありました。果たして自分はどうか、とよく思っていました。自分が怒られないために、自分が問題を起こさないように、自分が、自分が……。こんな気持ち、今まで担当してきた患者さんが聞いたら何て思うんだろうと思います。最近になって、ようやく、患者さんのためにと強く思えるようになってきたのかなと思っています。一人医長の経験は、医師としての意識を変えてくれた気がして、この黒部での日々は私の宝物です。

しかし、こんな若造が偉そうなことを言うつもりもなく、まだまだこれからいろんな試練が待っていると思います。この同門会の、たくさんの素敵な諸先輩方を目標として、これからも精進してまいります。



中央が竹村朋子先生、左は同期の森本弥生先生（砺波総合）、右は島田教授

当たり前の毎日に感謝

夫を亡くして9年目になりますが、「おはよう」「行ってきます」「ただいま」「お父さんご飯やよ」返事はありません。居るのが当たり前だったのに居なくなると寂しさ・不便さを感じます。形成外科に配属されて35年も経ちました。本年3月で退職する私ですが、4月になったら、また寂しくなると思います。寂しいはいいですが、不便さを少しでも感じていただけたらお役に立てたのかな？と幸せに思います。当たり前の毎日が送れたのも先生方のおかげ感謝申し上げます。本当に長い間ありがとうございました。

医局事務 中村和子



〈7頁のクイズの解答〉

A1. 口蓋裂の手術記録は長谷田泰男先生、rodent ulcer は山本正樹先生によるものです。

A2. **Basal cell carcinomas (BCCs)** and also commonly known as **rodent ulcers** because they gradually gnaw away in the skin (like a **rodent**).



医局からのお知らせ

☆医局ホームページのご案内

<http://www.kanazawa-med.ac.jp/~prsr/> から医局のホームページにアクセスできます。開催学会の情報もここからご覧いただけます。

新たにリンクをご希望の方はご連絡ください。

☆新入医局員の紹介

初期研修終了後から育児休暇中だった三田要子（みったようこ）先生が、昨年10月から形成外科専門研修を開始しました。よろしくお願いたします。



学会のお知らせ

☆北陸形成外科学会、日本熱傷学会北陸地方会

日時：2020年2月29日 15時～

場所：金沢医科大学病院1号棟12階大会議室

今回の特別講演（形成外科領域講習に認定）には、眼瞼の手術で有名な村上正洋先生（日本医科大学武蔵小杉病院）をお招きします。北陸在住以外の先生方の発表や学会参加も歓迎いたします。

同門会事務局からのお知らせ

☆2020年（令和2年）新年会

2020年1月18日（土）ホテル金沢 18時半～
出欠のFAXをまだ出しておられない方は6日までをお願いいたします。

☆平成31年度（令和元年・2019年）同門会費未納の方は納入をお願いいたします。

☆同門会会員の近況をお知らせください

文字数や内容は一切問いません。写真1枚でも結構ですので、先生方の近況をお知らせください。

☆同門会幹事会開催のお知らせ

例年通り北陸形成外科学会開催日に幹事会を行います。追ってご連絡いたしますので幹事の先生方はご出席ください。

【編集後記】某大学皮膚科では同門会誌が元旦に届くという話を聞いた島田教授が、「元旦に届くのいいよね」と気軽に言いました。たまたま45周年記念祝賀会の写真で紙面を埋めることが出来たから良かったものの…。今年の抱負を“安請け合いをしない”に決めました。（き）

金沢医科大学形成外科学教室同門会事務局

（金沢医科大学形成外科内）

〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学1-1

TEL076-286-2211（内線6526）Fax076-286-8915